

本日も、熊本労災病院のHPを訪れていただきありがとうございます。

「バス停のナンキンハゼの若芽も萌え出し」、くらいを書き出しにしようと思いましたが、数日前になんと剪定でほとんどの枝が伐られてしまいました。県道の街路樹なので夏場の繁茂を想定してなのだと思いますが、若芽も何も無くなって寂しい限りです。彼もあんなところではなく、里山にでも生えればこんな目にあうこともなかったろう、と哀れになりました。でも、早晩、新しい枝と葉が生え、晩秋には白い種子をまた育てる生命力にも期待しています。

あっというまに3月も終わります。文字通り一日が「去る」ように過ぎて行きます。私の任期も十日を切りました。7年間院長として過ごし、この駄文も最後になります。大学教授を定年一年前に、「自己都合退職」として辞め、当院に院長として赴任しました。それまでの移植外科医療への未練たらたらでしたが、一方で、この地域における労災病院の機能と信頼の向上に尽くしてみよう、という意気込みも強くありました。当院は大学病院と異なり、労働者健康安全機構という法人傘下の病院で、院長の独断裁量は極めて限られていて、病院の思いと法人本部の意向調整は労力を要しました。来てすぐ着手した、売店のコンビニへの転換でそれを強く認識しましたが、1年近くかかり実現することができました。先日、住民票をそのマルチコピー機で取りましたが、その利便性を実感できました。しかし、機構本部にお世話になることも結果的に多く、「高度医療・災害対応棟」の新築でも、約40億円の新設費用を本部からの借り入れで賄うわけで、有賀理事長や、当時の担当理事である中島先生、中岡先生、そして間に立った木村事務局長には、ご尽力・承認いただいて感謝しかありません。寄らば大樹の陰、でもあります。産科の件でも、関東地方の病院からの動員要請なども含め、多大な努力をいただきました。最近、和歌山の病院への産科医師派遣が東京大学から行われる、というニュースが流れましたが、当院も希望を失わずに、産科医獲得に引き続き努力を続ける所存です。これまでも書いてきましたが、助産師さんたちも、男女を問わない思春期相談外来(仮称)の創設など、豊富な経験を活かした新たな取り組みを始めようとしています。ご支援御協力いただければ幸いです。

3月は試験と合格発表のシーズンでもあります。最近は年内入試なども多いですが、やはり3月に一喜一憂する場面は、伝統的にも、また、季節の移ろいを背景に感慨深いものがあります。来年度、フルマッチで予定していた研修医候補は、全員医師国試に合格し、4月1日に晴れて全員入職することになりました。大学入試の合否も次々と明らかになりました。私は、受験した大学から遠くに住んでいたので現地での発表を見には行かず、大学の生協に依頼していた合否連絡電報を、自宅で自分で受け取り、10m程の室内を歩いてわざわざ家の裏に行って開封し、「サクラ咲く」を確認したことを鮮明に憶えています。あとから点数が確認できますが、ほんとうに合否紙一重だったようです。人生、いくら自分でよいことに向かって最大限やりきった、と思っても、必ずしも思うようにはならないことはたくさんあります。相対評価であればなおさらです。でも、それは全く無駄ではない、と信じています。大学入試でうまくいかなかった皆さ

ん、医師国試でうまくいかなかった皆さん、方針転換もいいですし、あと1年、目標を一点に絞って再起を期すのも、長い人生、きっといつか自分にいいように跳ね返ってきます。とにかく、全力で生きてがんばると、きっと良いご褒美があります。昔何かに書いたことがあります、私は、医師1年目、彦根市立病院で1年間小児科医をしました。その15年後くらいに、彦根城にお客を案内したときに、駐車場の整理のおばさんから、「猪股先生ですか」と声をかけられ、「今は高校生になった子どもが赤ちゃんのとき、肺炎で入院してたいへんお世話になりました」とお礼を言われました。私は、若いときの症例は全部ノートに記録してあって、それを読み返すと、それらしき方が記載されていました。彦根の当時、若造でもあり、ほとんど病院で過ごしていましたが、そのお母さんは、夜中にも診に来る私を覚えていてくれたようです。長く医者をしていると、そんなご褒美のようなことがだんだん増えてきます。でも、それには、全力で患者さんの立場によりそって邪念無く努力する、ということが条件のように思います。私は労災病院に来て、そのようなことを、細かくごちゃごちゃ言い続け、鬱陶しいな、と思われた職員もいるかもしれませんが、現在の医療者のほとんどは、その気持ちで患者さんたちに接していると信じていますし、実際にお礼を告げられるご意見箱も増えました。しかし、厳しいご指摘も少なからずあり、これからもご意見、叱咤激励をよろしく願いいたします。

当院は、従来から、地元で信頼されて地味に仕事をしているところが特色のように言われてきましたが、その「中身」はあまり外部に出てくるのが無かったように思い、ここ数年、HP/メディア対応ミーティング、というものを組織して、その方面に明るい伊藤事務次長も加えた多職種で、毎週金曜日の朝、短時間の会議を繰り返し、HPのみならず、FB、インスタグラム、その他地元のFM放送やタウン誌への掲載など、露出のネタと機会を増やしてきました。外に情報を出すということは、それだけその内容に責任を持つということでもあり、雰囲気だけではない、多くの面での実質的な充実にも繋がったと思います。ただ、情報伝達としては、たとえば、4月1日以降予定の駐車料金の改定のご案内がようやく3月13日に出るとか、間もなく始まる新棟の工事開始に伴う、防災センター側入り口の閉鎖などの患者様動線の変更についてまだお知らせが行われていないなど、関係者の余力の問題もあるのですが、タイムリーさに欠ける点が課題です。これからも、職員の自発的な提案により情報発信は継続する予定ですので、ご注目の上、これに関してもご意見をいただければ幸いです。

八代では、南ロータリークラブ、というものに加入させていただき、医師の社会より少し広い世界を垣間見ることができました。お高くとまったサロン、というイメージではなく、一国一城の主たる各会員の仕事に対する覚悟とゆとりを実感し、また多くの患者様のご紹介をいただいたり、正面花壇の整備をボランティアでやったださるなど、八代の地域に溶け込む一助となるお付き合いができました。これを含め、この病院で、地域医療に携わることができ、自分の医師人生が広がったことに、深く感謝しています。

私は、院長退任後の4月以降も、毎水曜日にこれまで通り小児外科・移植外科の外来を担当し

ますので、そこらへんをこっそりうろうろしております。

次に来られる、松岡 雅雄 新院長は、とても紳士です。血液内科や感染症がご専門ですが、その専門とは関係なく、地域の機関病院たる熊本労災病院の運営に粉骨砕身のご活躍をしてくださると信じています。新院長は熊本大学のご出身ですが、この病院や、八代についての深い情報はまだ希薄かと思います。なんでも新院長に情報を伝えてあげて、一層良い、熊本労災病院となるご支援をいただければとてもありがたく存じます。

最後の文章で、長くなりましたが、お付き合いいただき感謝申し上げます。

7年間、ありがとうございました。そして、これからも労災病院をよろしく願い申し上げます。